

# 別海町立上西春別小学校

指定年度：H30～  
児童数：144名

## 1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

### ①教育理念や経営方針の浸透

- カリキュラム・マネジメントの充実を通して、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すために、学校の教育目標と「目指す子ども像」を改訂した。
- 学校・家庭・地域で、教育目標や「目指す子ども像」を共有するため、平易な言葉で評価が可能な内容にした。
- カリキュラム・マネジメントの中核となる総合的な学習の時間で育成する資質・能力と内容の整合性を図るようにした。

### ②協働意識の高揚

- 教育の質の向上と働き方改革の推進を両立するため、教職員の協働意識を高揚させるとともに、校務運営委員会の機能を生かし、校務分掌間の共通理解と連携を図りながら、業務改善と教育活動等の見直しを推進した。
- 教育活動等の見直しに合わせて、学校生活の手引きとして保護者向けに「上西小ガイド」を発行したことにより、教職員の共通理解が深まるとともに、協働意識の高揚が見られた。

### ③コミュニケーション及び人材育成

- 令和2年度は、教員としての経験を積み重ね、組織的・計画的に人材育成に取り組むことができるよう、第6学年の学級のみベテランの教員が担任し、残りの5学級は全て初任段階教員が担任した。
- 初任段階教員の学級担任をサポートする体制として、低・中・高の各ブロックの特別支援学級にベテランの教員を配置するとともに、各ブロックのベテランの教員がメンター役となり、日常的に交流を促進し、指導助言を行うことができる体制を整備し、業務の効率化が図られるようにした。
- 全学年の国語科・算数科においてTTによる指導や習熟度別少人数指導を導入したことにより、教材研究や指導の状況を複数の教員が日常的に確認するとともに、指導の在り方を交流するようになり、初任段階教員の指導力が高まった。
- 校内研究では、研究主題を踏まえ、各教員の指導上の課題に応じた個人研修テーマを設定したことにより、日常の授業改善の意識が高まった。

**教育目標** ひとりでもできる みんなでもできる  
いま せいっぱいに  
めざす子どもの姿

**=もっとかしこく=**  
 ◎教わりながら、わかる・できる  
 ◎教わったことを使って解決する  
 ◎コンピュータを上手に使う

**=もっとやさしく=**      **=もっとたくましく=**  
 ◎元気にあいさつ・返事をする      ◎粘り強くやり抜こうとする  
 ◎友だちと伝え合い・学び合う      ◎きまりを守り、規則正しく生活する  
 ◎ふわふわことはで認め合う      ◎人や社会と関わり、自分を高める

【改訂した目指す子ども像】

**見直した主な教育活動等**  
 ~授業と授業準備を充実するために~

- 運動会の種目精選(表現種目の集約)
- 学習発表会を音楽発表会へ変更
- 5学年宿泊学習の校内実施(防災学習)
- 放課後時間を確保できる日課表への改訂
- 連絡網のメール化
- 学級通信の精選(原則週1回)
- 家庭訪問の簡略化
- 参観日懇談会の工夫(学級資料の省略)
- 通知表発行回数の減(年3回→2回)

【教育活動の見直し】



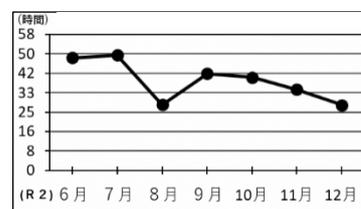
【日常的なメンター研修】

## 2 取組の成果と課題 (□：成果 ■：課題)

□初任段階教員の育成を窓口として、学校全体の体制を総合的に見直し再構成したことにより、学校全体で互いの授業を参観し助言し合う姿がより多く見られ、授業改善の取組が推進されてきた。

□新学習指導要領実施と働き方改革を「学校力の向上＝授業の質の向上」という視点で結び付け、学校の教育目標を改訂するとともに、教育課程や業務の改善を図ることができた。

■ハード(しくみ)に不可欠なのはハード(意識)であるという職員風土が確固なものとなるよう、取組を継続していく必要がある。



【教員の平均在校等時間】